バセドウ病 06

バセドウ病の方が妊娠を考えるとき

薬を飲みながらでも、妊娠・出産はできます。大切なのは、妊娠する前に甲状腺の状態を整えておくことです。

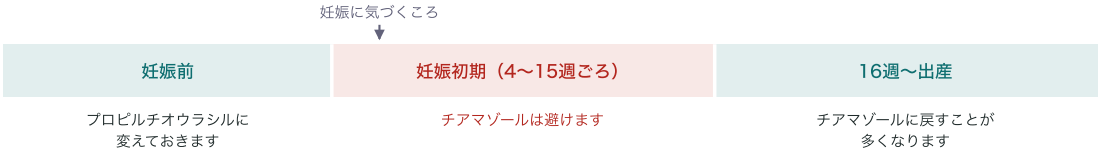
Q 妊娠しても大丈夫ですか

甲状腺の働きが落ち着いていれば、妊娠・出産のリスクは通常とほとんど変わりません。

一方、甲状腺ホルモンが高いまま妊娠すると、流産・早産・妊娠高血圧などが起こりやすくなります。**治療を続けることが、赤ちゃんを守ることにつながります。**

ですので、**妊娠を考えはじめた時点でご相談ください。**値を確かめ、必要なら整えてから妊娠に臨めます。

Q 薬はどうなりますか



妊娠する前に切り替えておくのが、いちばん確実です。

妊娠の初期は赤ちゃんの体ができる大切な時期なので、**チアマゾール（メルカゾール）は避けます。**

妊娠に気づくのは5〜6週ごろで、すでにこの時期に入っています。ですので、**妊娠する前にプロピルチオウラシル（チウラジール・プロパジール）へ変えておきます。**状態によっては、一度お休みできることもあります。

16週を過ぎたら、チアマゾールに戻すことが多くなります。

チアマゾールを飲んでいるあいだに妊娠が分かったときは、すぐにご連絡ください。薬を変更します。自分の判断でやめると甲状腺ホルモンが高くなり、そのほうが赤ちゃんにとって危険です。

Q 赤ちゃんへの影響はありますか

バセドウ病の抗体（TRAb）は、**胎盤を通って赤ちゃんに移ります。**抗体が高いままだと、生まれたあと一時的に赤ちゃんの甲状腺が活発になることがあります。

多くは**数か月で自然に治ります。**妊娠の後期に抗体を測り、備えておきます。

授乳もできます。ただし薬は母乳に移るため、**種類と量によって条件が変わります。**プロピルチオウラシルは移りにくく、チアマゾールは量を抑える必要があります。

授乳を希望される場合は、出産前にお伝えください。薬の種類や量、飲む時間を調整します。

Q 治療法を選ぶときに

アイソトープ治療を受けた場合、**そのあと半年は妊娠を避けていただきます。**妊娠の希望と時期によって選べる治療が変わるので、**計画を一緒に立てましょう。**

出典：日本甲状腺学会 バセドウ病治療ガイドライン2019（南江堂）

診療目的での複製は自由に行えます。